

○議長（作元 義文君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） ありがとうございます。しっかりお願いをしておきます。終わります。

○議長（作元 義文君） これで、船越洋一君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。再開を11時5分から行います。

午前10時52分休憩

午前11時04分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。次に、3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 入江有紀と申します。よろしくお願ひいたします。

一般質問に入る前に、ちょっと一言、言わせていただきます。11月の委員会を休ませていただき、長崎県の女性議員の大会に行っていました。一応、参加が初めてということで、ものすごく歓迎していただきました。来年は壱岐でありますので、また参加させていただきたいと思ひます。いい勉強をいっぱいさせていただきました。知事さんとの会食を2時間いたしました。一応、2日間にわたって、障害者施設を回らせていただき、対馬もこんな施設があればいいのになと思ひながら、佐世保、長崎、福岡に預けてある子供さんたちのためにと思ひ、なるのにと思ひ、一生懸命頑張ろうと思ひて帰ってまいりました。私が議員のうちに、あの施設をつくりたいと思ひております。

6日の議会で、市長が辞められると言われたのですが、このことについて2日間、私はずっと聞いておりましたら、辞めるとか、辞めないとか、男のくせに一回辞めると言った人が、きのう、おとといの発言では、また辞めないような発言をしてみたり、男だったらちゃんと自分の言ったことに対しては責任をとってくださいよ。

以上です。（「もっとも」と呼ぶ者あり）

一般質問に入らせていただきます。

企業誘致について、お尋ねします。私は、決算委員会で驚いたのですが、この5年間企業誘致の成功事例は全然ないのに、決算内容は毎年750万円から800万円の誘致費用を使っているのですが、合計すれば、4,000万円ぐらいになるのですが、これは、一応市民の税金から出ているのですが、市長はこの5年間どういう誘致活動をされたか、お答えください。

第2に、対馬いづはら病院・中対馬病院跡地検討委員会及び跡地利用について、お尋ねいたします。私は、9月の一般質問でいづはら病院・中対馬病院跡地検討委員会の第3回会議録について、お尋ねしたのですが、部長からはきちんとした返事がもらえず、自分で第3回跡地委員会の

会議録のテープを取り寄せ、確認いたしました。市民の方たちが、一番注目しているいづはら病院跡地のケアミックス型64床のことについて、病院企業団に対して、委員の方が「64床は病院企業団でやってもらえないだろうか」という質問に対して、病院企業団のほうからは「いづはら病院と中対馬病院を合併させて、新しい病院にするのだから、いづはら病院64床を残せば、新しい病院がやっていけない」という返事がきたのですが、そのことが会議録から外されていたのです。一番重大な発言を会議録から外されたということは、どういうことなのでしょう。市長の不利になることだから、外されたのでしょうか。第4回跡地検討委員会でも、同じ委員の方が同じ質問をされたんですけど、前に述べました同じ発言が出ました。市長は、私の一般質問で、残す、残すとずっと言っていますが、一体これはどういうことになるのでしょうか。全然、残らないじゃないですか。私は、第5回の検討委員会にも行ったんですけど、残りませんよ。64床は。それで、全く信用性がないものだと思います。

以上です。お答えください。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 通告にありました企業誘致の件から、まずお答えさせていただきます。

企業誘致、700万のお話がありました。その内容につきましては、企業誘致事業等で予算を執行しているわけですけど、720万ほど、全体でございます。そのうち、使っている内容としましては、北部の三宇田地区のホテル誘致事業の広告掲載費用が15万入っております。また、野良の埋め立て地、土捨て場がございますが、そちらのボーリングの調査等も、あとでの宿泊施設の可能性を探るためとかいうことで、それらも百七、八十万かかっております。さらに、上対馬観光リゾートイメージ作成費もそこにあります。また、地元産品の消費奨励金というのがございますが、CASのほうで雇用をしていく際に、地元の産品をさらに加工していただくということで、そのような奨励金もあります。それも317万2,000円というのが、含まれての700万でございます。今言いましたように、北部のホテルの誘致に向けた広告等の話、それからボーリング、地質調査、これも宿泊施設の誘致のための事前調査とかという形で、これらを組み立てております。決して、企業誘致といえますか、そのような雇用の場をつくっていくということに向かって、私どももやっているわけですが、入江議員さんおっしゃられるように、5年間何もないやないかと言われてたら、単純に企業誘致という考え方でいけば、そうかもしれません。ただし、間違いなく言えることは、私ども以前の企業誘致の形では、今後日本の国全体の中では、あり得ないというふうに私は思っております。ただし、今までお付き合いをしてきた企業との関係とかいうのは、きちんと保つ必要もあるということで、そちらへ赴く旅費等もその中には、百数十万、福岡、長崎、東京、大阪、さらに韓国ということで、そういうのも含まれております。今、日本の国の方向性が、どんなになっているかということも、入江議員さんは十分に御存じだと

と思いますが、日本の国は今、新規ビジネスに対しての誘致制度、さらには信用保証制度、それらを国を上げて組み立てをしている状況です。今の既存の企業が移っていく。以前のような高度成長期のような企業誘致というもので、地方に雇用を創出していくことは難しいという判断に、私は立たれたものと、その制度を見たときに感じております。今年度から、そのあたりの組み立てというのが、色濃く出てきております。私どもは、それらに向かって雇用を、企業誘致ではなく、どうすれば地場産業の人たちも、1名でも2名でも、今まで以上に雇用ができる環境をつくっていくのかということが、私どもの行政の仕事になるのではないかなと思っております。

次に、2点目のいつはら病院の、特に跡地の問題でございますが、入江議員さんは、できんじゃないですかとおっしゃられますが、それをつくるために、私どもは何度も言っていますが、基準病床の数を見直しを県にさせていただくための、いろんな球を今出しているところであります。そういう意味において、入江議員さんも前回の質問の中で、これをつくりたいというふうにおっしゃってありましたよね。あそこに、それをつくるためには、基準病床のことを、県に認めさせなくてはいけないという考えのもとで、昨日の一般質問でも言いましたけども、基準病床の考え方の厚生労働省の通知等が新たに私どもも、小宮議員さんなんかの資料を見る中で、私どもは気づかされたところがあります。それは、自治体病院の再編、統合をする場合は、そのときの病床数というものを減った場合、元のベッド数というものを厚労大臣は、特別の事情があるものとして認めるということに、該当することですよというのが、平成18年でしょ、これが多分、17年か18年ですが、これらの通知が出されたことが、私どもは調べあげました。基準病床のことをクリアするために、今やっているわけです。そして、検討委員会におきましては、まだ答申はいただいておりますけれども、ケアミックスで、物事の組み立てをしてもらいたいんだと、市民はというふうな考えのようにございます。それらをかなえるため、それが60床とか64床とか、数値ではなく、厳原地域の方たちの医療を守っていくこと、そして、新たにできる病院の基幹的な病院でございます。その病院を補完できる体制というのをつくるのが、私どもの使命だろうと思っておりますし、それが命を守ることに繋がっていくと思っておりますので、前回の入江議員さんの発言の中でも、病院は入江議員さんも欲しいんだ、つくりたいんだというお話でございますので、どうかそういう意味において、お力添えをいただきたいものだと思っております。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 先ほど、企業誘致のことで言われましたが、CASのことは、企業誘致になるのですか。私の考え間違いかもわかりませんが、企業誘致というのは、向こうから引いてくるのが企業誘致にはならないのですか。私の考え間違いですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 企業誘致と、単に4文字だけを見れば、そのように今、入江議員さんが考えられるのも、いたし方ないのかなと思いますが、要は、何が目的かといいますと、雇用の創出が目的でございます。そして、雇用をふやすことが目的でございます。そういう意味において、離島振興法におきましても、過疎法におきましても、それぞれ企業誘致という考え方の中に、増設をすることも、増設といいますと、当然既存施設のことです。ここにおける増設をして、雇用人数を一定人数増やすこと、また投下資産をこれだけすることというふうな基準がありまして、確かに4文字だけを見れば、向こうから来ることだけが企業誘致のように、僕らも捉えがちですけど、条例等もまた読んでいただければと思いますが、増設というの、企業誘致条例の中にも入っております。島内企業の中の増設、雇用増大ということを目的にも、うたいこんでいるという条例だということで、私は理解しております。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 仕事がないために、若い者がどんどん向こうに出て行って、人口が減っていますよね。今、それで、どういうふうに市長は、これからはお考えでしょうか。ものすごい人数減っていますよ。市長になられてから、すごい減り方ですよ。全然、企業誘致はないし、仕事はないし、ずっと田舎を回れば、どうかしてください。息子たちが向こうに出ているから、それを引くような仕事を持ってきてくださいとか、ずっと言われるんですけど、5年間全然、そういうあれがないんですよ。だから、どんなふうな今からは考えをしていますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 何度となく、ここでこれから先の雇用のあり方とか、就業のあり方ということについては、話をさせていただきました。ちなみに、それとは別に、この10月の対馬の有効求人倍率でございます。幾らか御存じでしょうか。0.83まできています。以前は、0.2台をずっと推移をしておりました。これが0.83まで回復といいますか、今までこのような数字を出したことはないと思います。対馬において、0.5とか0.6台だったのではないかと、私は記憶をしています。0.8の数字まで、今回見たときに、今やっていることは間違いないのだろうなという思いもあります。また、雇用のお話がありました。それをどう考えているのか。私が。それにつきましては、当面、いろんなどころの力を借りながら、国のとか県のとかいうことは、当然でございます。そうじゃないと、やっていけません。ただし、中の人たちが、どう力をつけていくか。ここの中で外に売って出ながら、自分たちの地域資源を生かしながらと、または外の人を引っ張りこみながらということで、雇用をつくり出す以外にないと、先ほど言いますように、昔の企業誘致というのが、高度成長期ならばありましたけども、もう低成長期、もしくは減速している日本全体が、そういう中での企業というのは、東南アジア等に出ているわけです。そこで、私ども地方の生き残り方としては、やはり資源というものをどう生かし込むか、

それは単につくって売だけの話ではなくて、それを見せこんで、人を引っ張り込むことも、そこで雇用が生まれてくる。それは、今ある中の企業の人たちも違う視点で、そこに踏み込んでいただきたい。先ほど言いました。私どもも新規ビジネスという事業を、市として、この4年ぐらいつとやってきております。その方たちが大きく育ったかという、そこまではまだいっていません。しかし、どんどんその人たちを育てていくことが、私たちの行政の仕事だと思っています。どんどん種をまいていかないと、芽吹いていかないのではないかと思います。全ての人々がまっすぐと芽吹いていくかという、それもまた難しいことはありますが、その環境を行政として整えて、そこに雇用が生まれてくるという形をつくっていくことが、これからの対馬の、私は雇用をふやすことだろうというふうに思っております。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） もう一つです。前政権のときに、最終年度に、コールセンターの導入が具体的に話があったのですが、なぜ新しい財部政権になられて、これを引き続き実施に至らなかったのでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今おっしゃられたのは、天道茂の駐車場の場所ですね。予定をされたけれども、譲渡の単価が折り合いが全くつかなかったということで、当時終結をされたというふうな報告を聞いております。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） この前、五島のコールセンターに行ってきたんですけど、一応対馬にも来て、対馬でよければ対馬にしようかという、あれだったそうなんですけど、対馬市長の返事がよくなかったものだから、五島に100人採用のコールセンターをつくりましたということなんですけど、そういう話は市長はされたんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私のほうは、譲渡の単価の折り合いが全くつかなかったということの報告を聞いております。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 100人もの女性の採用ということは、これは大事な問題だと思うんですけど、やっぱりもうちょっとこういうコールセンターとか、女性の仕事、働けるところが、向こうから来らしてくださいと言ったときには、もうちょっと真剣にやってもらいたいと思っています。五島はすごいです。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 雇用を増大させるということに対して、真剣に取り組んでいきたいと思

いますが、また市有財産を売却するにあたってのことも真剣に考えていかないといけない。その兼ね合いだというふうに思います。そこにあまりの乖離があったのではないかというふうに、私は感じております。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） わかりました。いつはら病院跡地検討委員会のことに入りますが、跡地検討委員会の第3回目の会議録に外されていた文ですね。病院企業団は、64床残すのは無理だと、新病院がやっっていけないと、そのことです。会議録から外された理由をはっきり言ってください。部長に。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今回の件については、まだ答申も受けていない状態ですので、部長のほうに答えさせます。

○議長（作元 義文君） 福祉保健部長、多田満國君。

○福祉保健部長（多田 満國君） 当検討委員会のほうは、私のほうが所管をしておりますので、答弁をさせていただきたいと思います。

いずれにいたしましても、各委員からいろんな意見がございます。意見がございましたものを、会議記録としてまとめて、その後こういったことでまとめておりますが、よろしいでしょうかということで、それぞれの委員さんのほうにお返しをしております。その了をいただいて、公表ということにしておりますので、何ら問題ないと考えております。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 前回の質問と一緒にですね。それ、部長。全然、これを外したことは、これは重大な問題ですよ。いつはら病院跡には、もう病院企業団としては、作りませんよという問題は、市民が一番注目している問題なんですよ。これは。それを、医師と看護師の確保が難しいだけ書いてある。だから、私は会議録を取り寄せて、ちゃんと全部確認したんですよ。そしたら、部長は、この前からそればっかし言われるんですよ。もうちょっと、インターネットに載せると言っておりますが。インターネットに載せたところで、間違った会議録載せないでくださいよ。インターネットに。

○議長（作元 義文君） 福祉保健部長、多田満國君。

○福祉保健部長（多田 満國君） その後の第4回の検討委員会の中でも、そういった発言がありましたよねと、今さっきおっしゃられておりましたので、その分も含めて、会議録のほうに記載をしていく。登載をしていくということで、4回の会議録は、いずれにしても先ほど申しますように、委員の了解を得ながらやっております。その件については、前回、財部市長も答弁なされたでしょう。企業団が、あとの病床数、そこを使ってやるということは考えておりませんよとい

うことも、おっしゃっております。どうでしょうか、それで。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 同じことを前回もまた言うんですけど、企業団は、企業団じゃないと、病院跡はもうやっていけないんですよ。頭ひねってなんですか。それ。そうじゃないですか。同じことばかり、前回のときも、そういうあやふやでずっと終わったんですけど、小宮議員が公開質問書を出しているんですよ。企業団に対して。病院施設は、全然、医療施設はつくらないということを決まっているじゃないですか。それをずっと市長は、医療施設もあれすると言っていますけど。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） どうも、入江議員さん、病院企業団は、跡地で病院経営はしませんよという回答でしょ。当然ですよ。こちらが求めていませんもん。だから、今から答申を受けてから、私どもは動き出しますよというお話は、以前からずっと市民の皆さんにお伝えしているわけですよ。それなのに、最終答申も来ていない中で、今、できませんよできませんよと、それは病院企業団に、こちらはお願ひもしていませんよ。仮に、今のお話を聞いていましたら、病院企業団だったらやるんですかというのが、会議の中であったという話でしょ。あったという話で、前提で言われている。しかし、こちらは、それは市民がそういう話を、そのときさただけで、こちらは病院企業団に、あの跡地をお願いしますということは、一言も言っていません。そこをお間違いないようにしてください。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 一言も言っていないでしょうよ。言っていないでしょうけど、あそこは、前から言われるのが民間の法人にお願いをされていて、前も言われましたよね。しかし、民間のあれをするなら、どういう民間と今、交渉中なんですか。前からそれを言われるんですけど、前のときも、民間と交渉中、病院企業団とは交渉していませんよ、民間と交渉していますと言っていますよね。前回のときも。どういう法人と、もう来年、再来年になったんですけど、法人の名前が言えるなら言ってくださいよ。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） それについては、現段階で皆さんに公表するわけにはいきません。相手に対して失礼が起こってはいけません。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） そういうことはないと思いますよ。もう来年、再来年に決まってから、法人が決まっていないこと自体がおかしいんじゃないですか。思いませんか。何が頭ひねっているんですか。部長。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 頭をひねりましたので、私も。私が。

答申を受けてから、正式にその規模とか、考え方というのを受けて、正式には動き出しますよ  
ということは、もう以前から言っているじゃないですか。

○議員（3番 入江 有紀君） それは、わかっていますよ。

○市長（財部 能成君） わかっているなら、今それを言われること自体が、私は理解できないと  
言っている。見解の相違だと思いますよ。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 法人と言っていますけど、どこの法人かも、来年、再来年に迫っ  
てきているのですから、それを話せないということは、嘘じゃないですか。そう思いません。言  
えるはずですよ、法人の名前を。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） あなたに関係する法人でないことだけは確かです。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） そんな言い方はないでしょう。その言い方は。何ですか。今の言  
い方は。市長がそういう発言するんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） お互い、罵詈雑言をやめるようにして、お互いの建設的な論議をしてい  
く必要があるのではないかと、私は思います。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） それは、それまでにして、市長になられるときに、チラシをまい  
てありますね。あのときのチラシなんですけど、本当、南部市民、巖原市民は、病院ができない  
ということで、あきらめているんですよ。だから、これのチラシ、どうしてこんな、選挙前だか  
らまかれたんですか。これには、ものすごく巖原町も安心して診てもらえる。書いているんです。  
病気になっても、けがになっても、安心して診てもらえる。そうじゃないじゃないですか。もし、  
新病院ができたら。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 27年3月に新病院ができた後、それから改修等に時間は要しますが、  
そういう方向で今、チラシ、パンフレットを皆さんに医療を守るために出しておりますけど、そ  
れに向かってやっていきますし、入江議員さんも巖原地区の医療を守るためというお考えのよう  
にございますので、お力添えをいただきたいというふうに、こちらは言っているわけございま  
す。



○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 私は、第5回跡地検討委員会にも参加させていただいたのですが、病院企業団の安永さんが台をたたいて怒られたんですよ。台を立たたいて「何のために長崎から僕は来たんだ」と、部長と阿比留さんの不備で、事務局の不備で、ものすごく怒られたんです。台をたたいて、自分たちで勝手に市長に出す答申書をつくっているんです。だから、こういうことを跡地検討委員会で決めなくちゃいけないのを、多田部長と阿比留さんでつくったのを出しているんですよ。それで、台をたたいて怒られたんですけど、これは何の、跡地検討委員会なら、跡地検討委員会の言われたように書くのが普通じゃないですか。不備ばっかしで、恥ずかしいぐらいの不備でしたよ。あの第5回は、突っ込まれ、突っ込まれしてから。それで、市長に出す要望書みたいなのも、もう本当、事務局が勝手につくって全員に渡しているんですよ。本当、どうか、多田部長と阿比留さんのやり方自体が不備だらけで、騒動でしたよ。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 話を聞いて、私も第5回のは、全くわかりませんが、今の話を聞いておりましたら、事務局として恐らくたたき台として、恐らく白紙の状態で、なかなか会議というのは進まないじゃないですか。恐らくたたき台として出したんじゃないかというふうに、私は今聞いておりましたけども、それを後は、たたくのは、委員さんは当然だと思います。それが最初から100%完璧なのは、なかなか難しいんじゃないかと思いますが、あとの内容については、私は詳細は全く分かりませんので、部長のほうに答弁をさせます。

○議長（作元 義文君） 福祉保健部長、多田満國君。

○福祉保健部長（多田 満國君） 確かに第5回の検討委員会の、4回が終了した後に、提言書の素案を委員の皆さんのほうに送って、それを確認いただいて、それに対して修正等の御意見はございませんかということで、回答を求めておりました。そういった中で、事務局もその回答等を踏まえながら、提言書の素案をたたき台として、再度、テーブルでのせたわけでございます。そういった中で、先ほど議員おっしゃられるような修正意見を入れていないですよというものがございまして、そこは、私のほうも、委員の皆さんにお諮りをして、その修正意見をこの提言の中に入れてまして、それで皆さんまた御検討してくださいということで、その正案をまとめていった経緯はございます。

以上です。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 病院企業団の安永さんが、私は長崎から、わざわざ来ているんですよと、自分たちで案をつくってから出すということはどういうことかということで、台をたたいて怒られたじゃないですか。多田さんたちに。あんな勝手なことを、事務局でつくってから、

押しつけるような形にしたんでしょうが、あれは。

○議長（作元 義文君） 福祉保健部長、多田満國君。

○福祉保健部長（多田 満國君） 委員の修正の意見で、そこらあたりが欠落をしていた。それに関しましては、事務局のほうも非礼はお詫びをして、その後、提言書の案を検討する中で入れさせていただきました。それで、間違いございませんか。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） それは、第5回に行っていたんだから、私は見えていますよ。ちゃんと。だから、それ前のことですよ。事務局がつくって、みんなに配付したじゃないですか。そして怒られたじゃないですか。ガンガン。何もかも事務局が決めているじゃないかと言われましたよ。長崎から何のために自分は来たんだって。そうでしょうが。ああいうことをするんやったら、事務局がつくってしまって、あの19人の委員会は何もならないじゃないですか。本当、事務局の不備がありありと、あのときわかりましたよ。

○議長（作元 義文君） 福祉保健部長、多田満國君。

○福祉保健部長（多田 満國君） 提言書の素案は、今までのいろんな御意見、4回まで検討する中で御意見をいただいた分がございます。そういったことで、皆さんの意見をこういったことだろうと集約する中で、事務局がその素案をまとめて、その素案を第5回目の前に皆さんに示して意見を求め、そのときにこの分が私どもの修正意見として出してくださいということが、欠落しておりましたものですから、再度第5回目のときに、その分を字句を加えさせていただいて、皆さんで検討して正案を諮った。見たというふうな形でございます。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 元に戻りますが、部長はこの前の9月の私の一般質問で、会議録はインターネットに出しますよということを書いてあったんです。インターネットを果たして、全島の島民でどのくらいのインターネットをしている人がいますか。CATVのことも調べましたけど、20%ですよ。それ以外の人は見れないということですよ。だから、こういうのは、みんな注目していることなのですから、もうちょっと市報に出すとか、あれに出すとかして、みんなにわかってもらうようにせんと、これは、19人と事務局だけで決めよることじゃないですか。もうちょっと今こういうふうになっていますよ。こういうふうですよというのを、公表できないものですか。部長、お答えください。

○議長（作元 義文君） 福祉保健部長、多田満國君。

○福祉保健部長（多田 満國君） この検討委員会は、市民基本条例の趣旨もございまして、公募の委員も募集をしております。20名以下ということで、公募の委員2名参加をしていただいて、市民の御意見を聞くということも考えておりますし、各町の旧町の単位でございますけれども、

それぞれ1名入っていただいております。第4回目の折には、巖原地区のことだから、巖原地区のほうから、もっとできなかったらどうか。もうちょっと人選もどうやったろうかというような御意見もございました。そういったのもありましたけれども、委員理解のもとにやっておりますし、この検討委員会は、傍聴も含めて公開をさせていただいておりますので、ただ結果、インターネットでの広報という中には、2割程度というなお話もございましたけど、先ほど入江先生も言われるように、傍聴に来ましたということも許可しておりますので、全体にこころあたりの結果がどう伝わっていくのかは、100%にはならないとは思いますが、できる限りのことはやっているということで、御理解をいただきたいと思っております。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 第5回で終わったみたいなんですけど、このことを全島民にこういことになりましたと、そして、市長に答申を出しましたということを書いた、市報かなんかに書いて、全島民に教えていただくわけにはいきませんか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 全然、問題なからうかと思っております。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） まだ言いたいんですけど、時間がありませんので、同僚議員の3月の一般質問で、いつはら病院跡を残せない場合は、ぐだぐだ言わずに辞めると言っております。市長は、言われましたよね。それで、いつはら病院を残す、残すとずっと言っておりますけど、もし残らない場合は、潔く辞めてくださいね。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 入江議員さんの御協力を得ながら、いつはら病院の新たな病院開設に向かって努力をしていきたいと思っております。また、それができない際は、きちんと私も職を辞すつもりで、このことには一生懸命取り組んでおりますので、今の方向性というのに、協力をいただきたいという約束を取りつけないものだと思っております。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 今の言葉を、よく覚えておいてください。そして、巖原市民、南部市民は、透析とか美津島まで行けないんですよ、なかなか。そのことも考えて、絶対残すと言っているんですから、残す方向でお願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 残すように努力しますので、入江議員さんの御助力もよろしくお願いたします。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 元に戻りますが、企業誘致のことなんですけど、5年間成功して  
いないんですけど、これからも予算は取っていくつもりですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど言いましたように、700万という内訳を言いましたよね。だから、その700万の名前を変えましょう。表の、ならば、企業誘致ではなくですね。私ども、今の既存の企業なんかも雇用増大に向かってやっていけるところの事業費だというふうに、私どもはそういうふうに理解を、企業誘致というのを、そう理解しておりましたので、こういうふうな言葉を使いましたけど、入江議員さんの感覚では、企業誘致は外から呼び込むのだけが企業誘致だという感覚でおられるならば、そこが紛らわしゅうございますので、この表題の文言を変えたいと思います。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） わかりました。じゃあ、そうしてください。誤解しやすいので。  
以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで、入江有紀君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 昼食休憩とします。午後は、1時から再開いたします。

午前11時48分休憩

午後0時58分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、5番、淵上清君。

○議員（5番 淵上 清君） 清風会の淵上清であります。

質問に入ります前に、去る11月23日、白嶽登山後行方不明になりました庄司惣八氏の捜索につきまして、自衛隊の災害派遣をはじめ、迅速なる対応をいただきました市当局、消防本部、対馬消防団、南警察署をはじめ、懸命なる捜索に御参加をいただきました地域区民、協力者の皆様に対しまして、御親族、関係者に代わりまして心から感謝申し上げます。残念ながら、このような皆様の善意の御協力にもかかわらず、いまだ発見には至っておりません。一刻も早い解決を熱望するばかりでございます。

さて、今議会は、議会初日の市長の辞任発言で大変混乱いたしました。市長、何かお忘れじゃないでしょうか。あなたは私の質問に対し、答弁に窮して職を辞して責任を取りますと発言されました。質問を發しました私のほうがびっくりいたしました。そして、その討論は終わらざるを得ませんでした。私は、あの発言は、市長が常々その職を辞す覚悟で今の重責を担っていること